

特集：平成26年度 山と自然のサイエンスカフェ@信州から

第2回 「ライチョウの暮らしとその未来」(6月19日)

第2回目は、鳥類担当の堀田昌伸から、信州の高山帯に生息するライチョウの生態やかれらが暮らす高山でおこりつつあることについて話題提供しました。

ライチョウは中部山岳高山帯の“アイコン”です。長野県は、2012年と2013年、北アルプスの51の山小屋の協力を得て、「ライチョウ目撃情報等アンケート」を実施しました。その結果、登山者などから1,451枚のアンケートがライチョウポストに寄せられ、延べ4,353羽のライチョウが確認されました。現在、日本のライチョウの生息数が2,000羽を切ったと言われているので、いかに皆さんがライチョウに興味をお持ちかがわかります。今回のサイエンスカフェも、ライチョウに興味のある方が多く集まってくださいました。

現在、生物多様性はさまざまな危機に直面しています。特に、ライチョウをはじめとする高山に住む生きものたちは、それぞれの山岳が島のように孤立しているため、地球温暖化により行き場がなくなる恐れがあります。そこで、研究所では森林総合研究所などと共同で、温暖化により高山植生がどのように変化し、それがライチョウの生息にどのような影響を及ぼすかを調査してい

ます。

今回のサイエンスカフェでは、その内容をじっくりお話しするつもりでしたが、ライチョウを見たことがない人も多くいらっしゃいました。そこで、まずは6月3～5日に私自身が視察に行った立山室堂でのライチョウの生息状況をお話しました。次に、ライチョウの写真を見ながら、クイズ形式でライチョウの換羽が年3回であることやオスメスの識別方法などについてお話ししました。写真1～6は問題に出したものです。雌雄の違いを見つけてみてください。この話題で皆さんとやりとりしていたら、あっという間に時間が過ぎてしまい、肝心の温暖化影響についてはごくごく簡単に説明するだけで終わってしまいました。そのため、点数をつけるとすると、自分の発表については時間配分のまずさや内容の盛り込みすぎから落第かなと思っています。それでも皆さんから活発に質問や意見を出してくださったことで救われました。(堀田昌伸)



写真1と2は2011年2月27日、写真3と4は2012年6月29日、写真5と6は2012年9～10月に撮影したものです。雄は写真1, 3, 5, 雌は写真2, 4, 6です。